

平成22年度 輪之内町立仁木小学校 学校評価書

学校の教育目標	ひろい心もち 豊かに表現できる子 ○学び つくりだす子 ○思いやり あふれる子 ○たくましく きたえる子			
経営の重点	自立の基礎を培う教育の推進 ・しつとりとしてそれでいて勢いのある学校 ・基礎学力を身に付けた子ども ・ふるさとに自信と誇りをもった子ども ・一人一人を大切にす教師	1 職員の総力を結集した運営組織の確立 2 人間性を磨き、教師としての専門性を高める研修の充実 3 学校の教育目標の具現に徹し、学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進 4 豊かな心を培う活動と成就感を味わうことができる指導 5 家庭や地域社会との連携の強化		

町の重点	評価の観点	評価	成果	来年度の課題と改善策	学校関係者評価（意見）
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	1 <組織運営>教職員の特長を活かした校務分掌や主任制等、学校の組織が適切に構築され、機能しているか。	A	・総合や生活科の授業を中心に、児童の実態に応じて地域素材の開発をしたり、地域人材を活用したりして、ふるさと輪之内を愛する心を育てることにつながる授業や活動ができた。 ・6年生がリーダーシップを発揮して、縦割り活動に全校児童が生き生きと取り組んでいる。よい伝統である。 ・1日、15日の交通指導の様子が回覧されたのはよかった。 ・授業参観や行事の後で、保護者等からの意見を聞き、工夫改善に生かすことができた。 ・いなほ祭りでは、PTA主体で校区が丸一となっており、取り組みが広がっている。 ・会計関係については、学校徴収金運営委員会並びに会計委員会等が開催されており、適切に処理できている。 ・読書まつりで、親子読書や推薦図書、三色読書、本の紹介などの取り組みを進めることができた。	・学校のスリム化を図るための方策を求めるとはいいないところが少なくはないので、児童の交通安全に対する意識を高めるとよい。 ・学年別下校の時の下校指導を定期的に行いたい。 ・不審者対応の訓練や連れ去り防止教室等、危機管理教育は重要で、継続的に児童の危機意識を高める取り組みが必要である。 ・学校の取り組みのよさや児童のがんばりが十分伝わっていない気がする。もっと通信等でアピールを。連絡事項は、最小限にしたい。 ・「保小中」の連携を深めるため、年間を見通した保育園や中学校との連絡会を実施していく必要がある。	・子育ては、学校教育のみで実施されるものではなく、家庭・地域とが結びつき、連携してこそ成果が上がる。今後も連携を強化してほしい。 ・地域にいらっしゃる達人たる方々を発掘し、さらに、地域の人材育成につなげていければ、よい成果が上がり、コミュニティ形成に役担えと考える。その繰り返して、学校・家庭・地域の三位一体の児童教育がされることを希望する。 ・保護者の意見は参考に聞いておく。親は面倒なものは減らしたい思いもある。学校にとって大切なものを残しておきたい。学校の豊かさから大切な部分である。子どものため行事に参加させようと思っほしい。子どもは楽しみにしている。 ・読書について、本を借りても家で読まない。家では画像のものが多くかもしれない。一方で図書館に新刊が入るととても楽しみにする子どももいる。学校では好んで読んでいる。家でも、本が好きだから読みたいと思える子にしたい。そのために学校は？保護者は？と考えたい。よい本
	2 <特色ある学校>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の共通理解のもと、子どもたちや地域の実態に応じて特色ある教育課程が適切かつ確実に編成・実施されているか。	B			
	3 <危機管理>全教職員が、災害・事故等に対して常に危機意識をもち、子どもたちの安全確保を最優先にした環境を築く実践的な体制が確立されているか。	B			
	4 <開かれた学校>学校の教育方針や活動について、家庭や地域社会に積極的に情報提供するとともに、学校評価（自己評価・学校関係者評価）の結果を公表し、開かれた学校づくりに努めているか。	B			
	5 <連携・協力・啓発>保・小・中・（高）など学校間接続やPTA（保護者）、地域住民（団体）、行政機関等との情報交換や連絡調整及び家庭や地域社会に対して啓発活動を積極的にやっているか。	B			
	6 <情報・資金管理>各種文書や個人情報及び町費やPTA会費・各種積み立て等の資金が適切に管理されているか。	B			
	7 <図書館教育>学校図書館が利用しやすく整備され、図書の計画的利用や読書活動の推進に取り組んでいるか。	B			
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	8 <校内研修システム>校内研修（校内研究・現職研修等）の課題が適切に設定され、組織的、計画的に実施されているか。（特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応じた指導力を高める研修の位置づけ）	B	・研修に行って聞いた話を全職員で紹介するなど伝達でき良かった。 ・ICT機器を活用し、授業改善に向けて工夫してきた。	・若い教師が多いので、様々な校内研修会や校外研修で勉強する機会を増やしていく必要がある。 ・多くの職員が電子黒板をもっと手軽に使えるとよい。そのための研修も必要である。	
	9 <個人研修>一人一人が個人研修課題を設定し、校内外の研修に積極的に参加しているか。	B			
	10 <情報研修>「わかる授業」と校務のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等について幅広く研修しているか。	B			
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。	11 <基礎・基本の定着>指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりに努めているか。	B	・学級や個に応じ、いろいろな指導形態で少人数指導を行うことができた。 ・表現を校内研として取り組み、プレゼンのような場での発表には子どもたちは力を発揮している。	・基礎学力を定着させるための活動を、テストの直しなどで充実させたい。 ・学習規律が全員に徹底されないまま学習がスタートすることがあるので、きちんと全員ができるように見届ける。 ・個に応じた指導形態や方法について研修できる機会があるとよい。	・学力達成度について、他校との比較をしてはどうか。 ・先生がきちっと叱ってくれることが大事である。勉強に対する取り組みはきびしくしてほしいと思う。 ・学習が分からないまま進んでいくのは困る。つまりきがあるとき親は助けられない。学校が頼りだ。 ・支援の先生を組織的に生かしたい。
	12 <個に応じた指導>児童生徒の発達の段階や一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制・評価を工夫改善して、きめ細かな指導がなされているか。	B			
	13 <学習集団>学習の規律・習慣が確立し、共に高め合うことができる学習集団が築かれているか。	B			
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	14 <指導体制>道徳教育推進教師を中心に、全教師が分担、協力して指導していける体制ができているか。	B	・地域人材を活用した道徳実践ができた。 ・背面掲示等も活用しながら、学校行事や他の教育活動と関連づけて道徳の時間を行うことができた。 ・長期の休みに家庭でのあいさつを奨励できた。 ・児童会や生活委員会等が中心となって、あいさつ運動を進めることができた。	・来年度の道徳計画訪問に向けて道徳に力を入れていく必要がある。 ・あいさつへの取り組みが終わると、途端に声がなくなってしまう。継続させるための手立て等が必要である。 ・あいさつや掃除をする姿に現れるように、引き続き子どもたちに声をかけ続けることが必要である。	・最近あいさつがとてもよい。年々良くなっている。
	15 <全教育活動を通じた道徳教育>道徳の時間と他の教育活動との関連を明確にし、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画の工夫改善がなされているか。	B			
	16 <道徳の時間>道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力が育成されるよう、心に響く魅力的な教材の選定、指導過程の工夫、発問の吟味など、生き方についての考えを深める道徳の時間の充実が図られているか。	B			
	17 <心を育む体験活動>町の道徳実践の重点（あいさつ、美化、ボランティア）への取り組み等、家庭や地域社会と連携した豊かな心を育む体験活動を工夫しているか。	B			
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	18 <指導計画・指導体制>一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう、指導目標と指導内容を明確にしているか。また、指導計画を作成しているか。	B	・ALTと簡単な打ち合わせをした上で外国語活動の授業ができ、教師の出場が増えている。 ・子どもたちは総じて、英語でのコミュニケーションを楽しんでいる。	・ALTと打ち合わせの時間をもつ工夫をする。 ・H23年度の高学年外国語活動の実施で、外国語活動の評価について研修をする必要がある。	
	19 <指導過程>学級担任が主体となり、ALTと協力して外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を設定したり、指導方法を工夫したりしているか。	B			
	20 <学習集団>お互いに認め合い、一人一人が安心してコミュニケーション活動に参加しているか。	B			

町の重点	評価の観点	評価	成果	来年度の課題と改善策	学校関係者評価（意見）
【総合的な学習の時間の指導】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	21 <全体計画・指導計画>小・中学校の接続を踏まえ、ねらいや内容、他教科との関連等を明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画が工夫改善されているか。	B	・地域に出かけたり、地域の方に来ていただいたりして、意識化が図れた。 ・講師を呼んで、児童の学習意欲を高め、探究的な活動になるように仕組んだ。 ・総合学習では、問題解決的な学習を実施し、体験活動や調べ学習に取り組んだ。	・どの教科でも、児童が主体的に学び考えることができるような学習活動の展開を更に工夫していきたい。（課題・調査・考察・発信・保存）	・総合のような学習は、まだまだ地域の達人たる方々がいらっしゃると思われているので、人材を発掘してほしい。また、その方が地域の人材育成につなげていければ、よい成果が上がる。
	22 <探究的な学習>身に付けた知識や技能を相互に関連づけ、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的・計画的に設定し、探究活動を展開しているか。	B			
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	23 <自発・自立的な活動と指導計画の工夫>自己の生き方について考えを深めるような指導計画を工夫し、自発的、自立的な活動（いじめ問題等への取組）を展開しているか。	B	・各委員会がキャンペーンなどをし、全校に呼びかけることで、自分たちで直そうという意識化ができた。	・子どもたちの自主的な運営を進めることをさらに心掛けたい。	
	24 <評価>集団や社会の一員としての自覚を深めるため、児童・生徒会活動や学級活動等において、個々の活動状況を見届け、一人一人の良さや可能性を認め、励ましているか。	B			
【生徒指導】 児童生徒一人一人に正対して共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。	25 <生徒指導（教育相談）体制>いじめ問題や不登校・暴力といった生徒指導上の諸問題に対して、未然防止や早期発見、早期対応を図るための生徒指導体制（教育相談体制）が構築され、機能しているか。	B	・1ヶ月に1回、いじめアンケートを活用し、早期発見に努めたり、話を聞くことができる。 ・ケース会議を開いて、協力体制をはっきりさせたことで、児童の変容が見られた。 ・小さなことからいじめにつながるという意識で子どもの指導に当たることができた。 ・地域ぐるみの生徒指導推進のための体制づくりが町として形作られており、見守り隊の方にご協力いただいで、地域の安全を確認できた。 ・PTAでもあいさつ運動に取り組んで成果を上げている。	・定期的な生徒指導交流以外にも教育相談などで出てきた課題を早期に全職員で共通理解を図り、対応するとよい。 ・学年のまとめとして学習やチャレスポへ取り組み、達成感をもたせたい。 ・全体的に目立った事案はなかったが、規範意識の低下を憂う。 ・卒業生の中学校での生活の情報把握し、職員全体へ伝え、小学校段階で指導すべきことを明確にした指導を心がける。	
	26 <学年・学級経営>子ども一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感を感ずるよう児童生徒のかかわり合いを大切に学年・学級づくりをしているか。	B			
	27 <生命尊重・倫理観・規範意識>命の大切さや基本的な倫理観・規範意識を体得できるよう、繰り返し指導しているか。	B			
	28 <地域ぐるみの生徒指導>地域における児童生徒の健全育成や児童虐待防止に向けた取り組みなどを支援するとともに、保小中高等学校間や関係機関と連携し地域ぐるみの生徒指導を推進しているか。	B			
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる。	29 <進路指導体制>自己の能力・適性等を發揮する取組が推進されるよう進路指導体制を構築し、児童生徒の発達段階に応じた全体計画や年間指導計画が整備されているか。（共通）	B	・子どもたち一人一人の個性を大切にしながら、各学級で役割分担を与えるなど、その個性の伸長に配慮されていることが多かった。 ・ピッカピッカ大作戦中は、静かに掃除をする姿が多かった。	・子どもに夢をもたせる声かけや働きかけを大切にしていきたい。	
	30 <勤労観・職業観>望ましい勤労観や職業観が育つよう、ねらいを明確にした体験活動を意図的・計画的に実施しているか。（共通）	B			
	31 <ガイダンス>一人一人の進路希望や能力・適性を生かすことができるよう、個に応じた適切なガイダンスを行っているか。（中）				
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	32 <保健・安全・食>児童生徒の生活習慣や心身の健康状態を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「保健・安全・食」に関する指導を工夫改善しているか。	A	・栄養教諭による給食の時間の訪問が増え、食の指導が充実した。 ・朝のマラソンや縄跳びもあり、休み時間も外で遊ぶ児童が多い。 ・体力テストの結果から、重点とする運動を体育に取り入れるように提案できた。	・けがが多いので、遊び方や場所の注意など徹底し、児童に再確認させると良い。 ・家庭での歯磨きがなかなかできていない状況なので、今後も連絡ノート等で啓発する。 ・睡眠時間が短い児童が多い。発達段階に応じた集団指導を行っていくと良い。	・学校では外で遊ぶ子が多い。家で遊ばない。TVやゲームで過ごす子が多い。下校中に遊びながら帰っている。家に入ると出てこない。下校中が一番自然に遊べる時かもしれない。
	33 <運動推進>管理職・教職員の役割や専門性を生かし、組織体として健康・安全に関する管理・教育を進め、運動技能を身に付け、仲間と一緒に運動する楽しさや喜びを味わうことのできるよう努めているか。	B			
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	34 <校内支援体制>管理職のリーダーシップの下、校内委員会や特別支援教育コーディネーター・校内研修等、特別支援教育推進のための校内支援体制が整備され、機能しているか。	A	・必要に応じたケース会議をもつことができた。西濃こどもセンターとの連携もでき、保護者とよい関係ができた。 ・交流学級と温かな関わりをもち、その中で学んだり成長したりすることができた。 ・1年生と支援学校の児童との交流がしっかりできた。また、誕生会など、教科学習の他にも参加させていただけうれしかった。	・今後も保護者と学校と家庭の様子を交流しながら、一人一人の特別な教育的ニーズに応じた指導方法を検討していくことが必要である。	・支援の先生を組織的に生かしたい。
	35 <個別の支援>一人一人の特別な教育的ニーズに応じて、個別の指導計画や教育支援計画が作成されるとともに、指導内容や方法、教材教具の工夫に努めているか。	B			
	36 <交流及び共同学習>特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的に行っているか。	A			
【人権同和教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重するあたたかい人間関係を醸成する。	37 <人間関係の構築>互いのよさを認め合う、温かく思いやりのある人間関係を形成する指導を工夫しているか。	B	・標語づくりをすることで、意識化ができた。 ・人権週間の取り組みとして行われた全校、各学級の活動は、互いに思いやることや温かい言葉づかい徹底させることができた。 ・全校の先生が全校の児童を見ることができていた。	・敬語をきちんと使えるように、その時々で直し、定着するよう指導していくと良い。 ・一人一人の不安や悩みをゆっくり聞いてあげられる時間をもっと確保していきたい。そのために日頃から、アンテナを高くし寄り添った指導を行うようにしていく。	・人権にかかわる事案は、PTA、人権擁護委員、評議員などにも相談をしてほしい。
	38 <いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級作りに向けて全校が一丸となった取組を継続的に行っているか。	A			
【情報教育】 教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。	39 <情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導に努めているか。	B	・キーボー島でのスキルアップは時間を確保してできた。 ・教科や道徳で情報モラルの指導をする機会ももてた。	・個の学習進度に合わせるために、パソコン室で勉強するとよい。教科の練習問題などでも積極的に活用していきたい。	
	40 <情報モラル>情報モラルについて、意図的・計画的な指導を行っているか。	B			
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる。	41 <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進しているか。	B	・これまでの地域人材バンクを活用し、生活科や総合で地域の方にお世話になる活動を続けている。 ・夏休みに行った中国研修の報告会という形で、全校の前で発表の機会ももてた。	・来年度も、地域教材や地域人材を生かした道徳や総合の授業で、子どもたちの「郷土愛」を育てていきたい。 ・今後の生活科や総合学習を、表現活動の充実が図れるように、中身をより充実させていく。	
	42 <国際交流>中国（小）やカナダ（中）との交流活動を充実させているか。	B			

※評価欄の記号 A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である

